

マニュアルに新しく盛り込む事項の検討について

1 ゾーン設定に必要な具体的距離

(1) 漏洩等の物質からの距離を具体的に明示している各種文献等

ア 新近代消防戦術(参考資料1)

昭和 52 年から東京消防庁警防部監修のもと、編纂されている加除式の警防活動マニュアル。毒劇物災害・化学災害に「隔離・避難距離」表が掲載されている。

イ 必携 NBC テロ対処ハンドブック(参考資料2)

CBRNE テロ対処研究会により、平成 20 年に作成された、CBRNE テロ対処のためのマニュアル。平成 15 年に編纂された「必携 生物化学テロ対処ハンドブック」の内容更新するとともに、主に核・放射線兵器テロ対処を追加したもの。

ウ 緊急時応急措置指針(参考資料3)

北米等で流通している危険物を危険性により分類整理し、応急措置を指針としてまとめた「Emergency Response Guidebook 2008」を日本語に翻訳したもの。物質毎に漏洩に対する隔離距離の表が作成されているが、日本語には翻訳されていない。

⇒他に参考となる文献があるか？

(2) 隔離距離・避難距離に影響を与える要因

- ・剤の種類(有毒性、拡散性、比重、可燃性)
- ・散布・漏洩形態
- ・散布・漏洩量
- ・散布・漏洩場所(屋内・屋外)
- ・気象状況(風力・温度)
- ・散布・漏洩時間(夜間・昼間)

⇒他に影響を与える事項があるか？

(3) 具体的距離の設定方法(案)

○実際の対応では、対象剤が不明である場合が多いため、余裕を持った隔離距離、避難距離を定めることが適当である。(対象物質が判明次第、適切な距離に縮めていくことが現実的ではないか。)

⇒安全距離を確保すればするほど、消防機関の活動時間、内容が制限されるが？

⇒他機関では、初動時の活動はどのように行っているのか。(陽圧式防護服等を装着する場所は?)

○多くの物質別に隔離距離を設定しても、特に初動時の実際の現場での対応が難しいため、大まかな危険度を 3~4 段階程度設定して、それぞれの目安の距離を設定する。

⇒目安距離の根拠をどこに設定するか。

⇒物質判明後の隔離距離を別設定するか。

2 NBC災害でのトリアージ方法

⇒NBC 災害でのトリアージについて、特有なものがあるとの文献があるが、START 法以外の方法で行うべきであるのか。

(ウォームゾーン内でのトリアージは、消防隊員が実施することが多いと思われるため、マニュアルに追加を検討)